

# 人工心肺操作 独断で変更

大者 東京女子医大  
疑容 佐藤 容藤

## スタッフに伝えず 平柳さん手術時 パニック状態に

東京女子医大が、人工心肺の操作を担当した同病院長、佐藤一樹容疑者(38)業務上過失致死容疑で逮捕され、人工心肺の操作方式を、手術の責任者で執刀医の瀬尾和宏容疑者(46)に同らスタッフに伝えていなかったことが、警視庁捜査一課と平柳さんの調べで分かった。警視庁は、手術チーム内の意思の疎通ができていなかったことが、平柳明香さん(当時12歳)群馬県高崎市、昨年3月死亡の容疑発生時の対応を遅らせたことと、患者とその家族は非常に

「責任を痛感」  
病院長が陳謝

東京女子医大病院長の林直隆病院長と東間紘副院長は28日午後、病院内で記者会見し、「逮捕という事態を抱いた社会的責任を痛感している」と謝罪した。逮捕された医師や当時の上司らの処分を検討する懲戒委員会を26日、病院内に発足させたことも明らかにされた。病院長は逮捕されることにも思っていないと、たゞ驚きを隠さなかった。

東京女子医大病院が心臓移植の実施指定機関の返上を検討していること、患者や家族に動揺が広がっている。脳死者からの心臓移植ができる指定機関は全国に3カ所しかない。同病院のほかはいずれも大阪だ。日本移植者協会の久保通方理事長は「東日本に移植できる場所がなくなる、患者とその家族は非常に



心臓手術ミス死亡事故で医師2人が逮捕され会見する林直隆・東京女子医大病院長(中央)と東間紘・副院長(左)―東京都新宿区の同病院で28日午後3時半すぎ、松田嘉徳写真

「責任を痛感」  
病院長が陳謝  
「特定機能病院の指定とは関係ないが、(移植実施施設)返上を検討したい」と話している。また、「移植の待機患者への影響や(日本臓器移植ネットワーク)今病院にいる重症の患者を他の病院に移せるのか、いろいろと考慮したい」と慎重な検討が必要との認識を示した。

## どうなる心臓移植

東京女子医大病院が心臓移植の実施指定機関の返上を検討していること、患者や家族に動揺が広がっている。脳死者からの心臓移植ができる指定機関は全国に3カ所しかない。同病院のほかはいずれも大阪だ。日本移植者協会の久保通方理事長は「東日本に移植できる場所がなくなる、患者とその家族は非常に

### 指定機関返上検討

だ」と話した。日本臓器移植ネットワークによると、同病院で心臓移植を持つ患者は現在16人。大阪の施設でカバーできるのが影響はないと思ふ」と話す。しかし、患者や家族を支援するNPO・日本移植支援協会の高橋和「移植関係学会合同委員会

### 患者や家族動揺

子事務局長は「もし大阪に行くとしても、患者への身体的・精神的負担は大きい。行政などのハンデアップも必要」と訴える。厚生労働省臓器移植対策室の吉田学室長は「残された患者のことは最も大事だ。急いで病院と協議した方がいい」と話す。臓器移植法のガイドラインは、移植の実施について「簡単に(指定を)返上するとはわかに信じられない」と言っている。

東京女子医大病院  
ことば 外科系、内  
科、小児科  
など幅広い診療科を持つ  
総合病院で、医師約900  
人、看護師約1300  
人を擁する。病床数は1  
423。入院患者は1日  
平均約1300人で、外  
科系は約4300人  
に達する。  
特に心臓手術について  
は、関連の学会から日本  
を代表する施設として位  
置付けられ、日本で三つ  
しかない心臓移植の実施  
施設の一つに指定されて  
いる。

「陰圧法」の場合、手術部位の血液を取り除く吸引ポンプの回転数を上げ続ける。圧力異常が起きる。佐藤容疑者がこのポンプの回転数を上げ過ぎたために装置が正常に作動せず、血液が循環しなくなっていた。このトラブルで佐藤瀬尾両容疑者らスタッフはパニックと

は証言しているという。「陰圧法」の場合、手術部位の血液を取り除く吸引ポンプの回転数を上げ続ける。圧力異常が起きる。佐藤容疑者がこのポンプの回転数を上げ過ぎたために装置が正常に作動せず、血液が循環しなくなっていた。このトラブルで佐藤瀬尾両容疑者らスタッフはパニックと

女子医大小児心臓手術事故  
特定機能病院返上  
2002年6月29日 毎日新聞